

Ⅲ－３ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1. 次代につなぐ森づくり大会「森フェス」

(1) 実施主体

森フェス実行委員会（大分県・（公財）森林ネットおおいた）

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

県主催の森づくり大会は、植樹活動を中心に昭和31年から毎年、形式を変えながら継続して実施してきた。

令和4年度に開催した「第45回全国育樹祭」を契機として、次代につながる森林づくりを推進するため、森林・林業に興味・関心を持ってもらい、当県の森づくりを担い育てる人材の育成が求められている。

②目的

令和4年度に開催した全国育樹祭の「伐って使い、植えて育てる」、「次代につながる森林づくり」の取組みを一過性のものとしないうちに、子どもを主体とした森林・林業体験イベントを開催する。

③事業内容

森林や林業への関心を高めるため、子ども達を中心に親子も対象とした森林・林業の活動を楽しく体験できるイベントを開催。

日時：令和5年11月18日（土）10：00－14：00

場所：平成森林公園全国植樹祭記念広場（豊後大野市大野町藤北）

内容：式典、広場アクティビティ、林内アクティビティ

<広場アクティビティ>



ツリークライミング



丸太切り体験

その他、火起こし体験&マシュマロ焼き、積み木、ワークショップ（バードコーン、端材アート）、プレーパーク、育樹祭&林業パネル展示を実施。

<林内アクティビティ>



森林観察



伐採体験

その他、ネイチャーゲーム、紅葉ウォーキング&クイズラリーを実施。

(3) 成果

参加者数は341名で、親子や子どもたちが、森林内での体験活動や広場での様々なアクティビティを体験し、森林や林業に触れ親しむことができた。これにより、日常では自然や森、林業に関わる機会がない県民にも、森に親しむ入り口としての機会を提供することができた。

(4) 今後の課題と取り組み

多くの一般県民に参加を促すためには、開催場所も参加を検討する重要な要因となる。森林・林業体験を実施でき、かつ利便性の高い開催場所を検討するとともに、アクティビティを追加するなど、多くの県民が参加でき、次回も参加したいと感じる取組を推進する。

2. 新たな森林づくり推進体制整備事業

(1) 実施主体

大分県

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。しかしながら、その理念や取組については、県民に広く浸透していない状況である。

②目的

大分県森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、県森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による県森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

③事業内容

・「大分県森林づくり委員会」の開催

令和5年度は第4期大分県森林環境税の3年目であり、第4期の県森林環境税の活用を円滑に推進するため森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	R5.8.2	・令和4年度森林環境税活用事業の実績 ・令和5年度森林環境税活用事業の予算概要 ・県森林環境税と国の森林環境譲与税について
第2回	R5.10.26	・令和6年度森林環境税活用事業提案について ・県政モニターによる森林環境税の評価について
第3回	R5.12.26	会議 ・令和6年度県森林環境税事業予算要求状況について ・国の森林環境譲与税について 現地視察 ・A P U（立命館アジア太平洋大学）グリーンcommons ・コンテナ苗生産現場

・「森林づくり流域協議会」の開催

県内各流域における森林環境税活用事業の適正な運用のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPOなどが行う「森林づくり提案事業」の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分東部・大分中部 大分西部・大分北部 (4流域)	・「森林づくり提案事業」(公募事業) の審査、実績の検証 ・意見交換等	東部流域： 対面1回 他流域： 書面決議

(3) 成果

「大分県森林づくり委員会」では、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用することができた。

また、「森林づくり流域協議会」では、各流域毎の森林づくり提案事業の審査・成果検証を審議し、事業趣旨に沿った取組を推進することができた。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税の創設の目的である「森林環境の保全」と「森林を守り育

てる意識を醸成」するため、多くの県民に大分県森林環境税や森林づくりに対する興味・関心を持ってもらうよう、一層の県民総参加の森林づくりを推進する。

大分県森林環境税活用事業については、激化する自然災害への対応、需要拡大に伴う人工林資源の利活用、森林林業教育のさらなる推進、SDGs や脱炭素の取組といった新たな動きへの対応など、変化する社会情勢に対応していくため、森林づくり委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を行う。

3. 森林づくりボランティア支援事業

(1) 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

(2) 実施事業の概要

①現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進している。ボランティア参加者数は令和元年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少したが、徐々に回復傾向にある。(令和5年度参加者数：12,309人)

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いことが現状である。

②目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

③事業内容

・森林づくりボランティア支援センター事業

大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、HPや情報誌の発行によって森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

ア 森林ボランティア情報の発信



センターHP



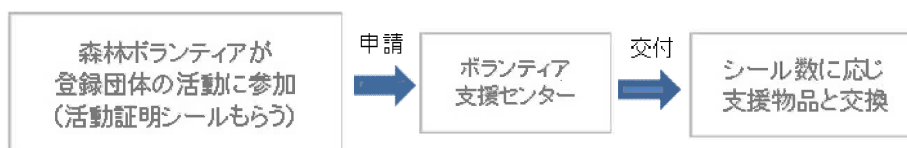
ボランティアセンター通信

HPでは、現在募集中のボランティア活動等について、広く情報の発信を行った(令和5年度は70回更新)。また、毎月森林づくりボランティア支援センター通信の発行・配布を行った。これらの積極的な情報発信によって、県民が自ら取り組む森林づくり活動の機会を提供することができた。

イ 森林づくりボランティア活動支援

★センターを通じた森林づくりボランティア活動支援の流れ

森林ボランティア登録者に対し、森林づくりボランティア通い帳を配布。活動に参加した登録者には活動証明シールを交付する。



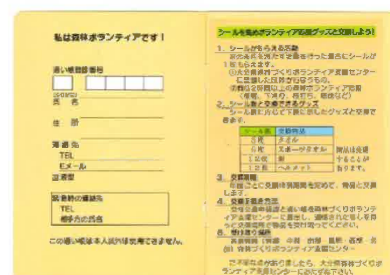
森林づくり活動実績に応じて、令和5年度はタオル・鎌・鋸などの支援物29点を14名に交付した。



支援物品



森林づくりボランティア通い帳



ウ ボランティア活動技能向上研修

森林づくりボランティア従事者を対象とした「伐採等の業務に係る特別教育(チェーンソー)」、「刈払機取扱作業安全衛生教育」の受講を補助することによって、森林ボランティアの技術向上をはかった。

【研修の様子】

	参加回数	参加人数	内容
チェーンソー	3日×2回	5人	伐木作業の基礎知識。実習等
刈払機	1日×2回	2人	刈払機の基礎知識。実習等



実習



学科講習

【令和5年度森林づくりボランティア支援センター事業実績】

委託先：NPO 法人グリーンインストラクターおおいた
1) 森林ボランティア情報の収集・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・HPによる森林ボランティア情報の発信（70回更新/年） ・「大分県森林づくりボランティア支援センター通信」の発行（1,000部/月） ・森林づくりフィールドの募集および情報提供 <ul style="list-style-type: none"> （① フィールド情報を募集②現地調査情報を登録③団体、企業等に斡旋）
2) 森林ボランティアの登録（新規 個人65名、団体4組）
3) ボランティア通い帳の発行（49冊）
4) 森林づくりに関する相談、情報提供等 <ul style="list-style-type: none"> 相談対応8件・・・植栽に関する指導・助言等
5) 森林づくり活動支援（人材斡旋7回、50人）
6) センター施設を利用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用団体：9団体 ・年間利用者数：848人（累計）

4. 森林づくり提案事業

県民から提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

令和5年度 森林づくり提案事業 実績

振興局	整理番号	活動団体名	活動場所(市町村)	活動内容	新規継続	活動者数(人)
東部	1	夢咲き桜の会	国東市	除伐・下草刈り・植樹	継続	100
	2	護町会	杵築市	竹林整備	継続	53
中部	3	まつぼっくりの会	大分市	サクラ等植樹活動	継続	63
豊肥	4	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷の森林整備 (下刈り・モミジ・ヤマボウシ等植栽)	継続	62
	5	特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	継続	33
西部	6	200海里の森づくり 実行委員会	日田市	森林づくり活動	継続	200
北部	7	千部もみじ村	豊後高田市	しいたけ駒打ち体験 1回	新規	62
合計						573



伐竹作業（杵築市）



植樹活動（日田市）

5. 森林山村多面的機能発揮対策事業

森林経営計画の策定されていない森林を地域住民、森林所有者等が協力して実施する里山林の保全、森林資源の利活用などの取組に対し国、県及び市町村が助成する（実施団体：9団体）

令和5年度市町村別活動団体数

大分市	4団体
由布市	2団体
杵築市	2団体
豊後大野市	1団体

・企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。令和5年度までの協定締結企業は35社となっており、新たに2社が協定を締結した。

〈令和5年度 協定〉

- ・（株）ネクスト
- ・大東建託（株）



植樹の様子

（3）成果

森林ボランティア団体等を対象とした技能向上研修等によって、森林づくりボランティア団体員の知識と技術向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では7団体を対象に支援を行った。

森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ12,309人が森林ボランティア活動に参加することで、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

【森林ボランティア団体・参加者数の推移】

年度	登録団体	登録個人（人）	参加者数（人）	目標参加者数（人）	達成率
H29	102	2,775	13,320	13,300	102%
H30	103	2,794	13,219	13,400	99%
R1	105	2,841	10,906	13,200	83%
R2	106	2,862	12,879	13,300	97%
R3	106	2,883	12,239	13,400	91%
R4	106	2,932	11,769	13,500	87%
R5	107	2,997	12,309	13,600	91%

（４）今後の課題と取り組み

参加者の高齢化や固定化という課題があるなか、毎月の通信の発行や、SNS の活用によって、森林ボランティアへの参加の促進につとめた。

引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

6. おおいたの森林づくり広報推進事業

（１）実施主体

大分県

（２）実施事業の概要

①目的

大分県森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

②事業内容

マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告 3回（大分県森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ テレビ・ラジオによる広報 18回（森林環境税事業のPR等）
- ・ Facebook ページによる情報発信（豊かな国の森林づくり Facebook）



Facebook ページイメージ

その他の広報活動

- ・大分県森林環境税チラシ・パンフレットの配布
- ・各広報誌材の貸出（森林環境教育ガイドマップ、環境税タペストリー等）
- ・大分県森林環境税事業実績報告書を、市町村等へ配布。HP公開。
- ・マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、大分県森林環境税に関するPRを行った。
(R5もりりん貸出し回数：2回)
- ・「農林水産祭」等において、大分県森林環境税に関するコーナーを設置し、大分県森林環境税のPRを行った。
- ・森の先生派遣事業チラシの作成

02



森の先生チラシ



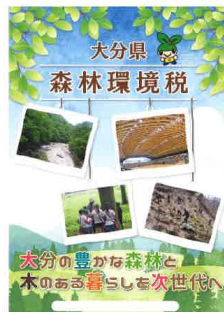
ガイドマップ



タペストリー



県環境税チラシ・パンフレット



PR用ばんそうこう



OPRの様子



もりりん着ぐるみによるPR



農林水産祭でのPRブース

(3) 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

(4) 今後の課題と取組

大分県森林環境税は第4期を迎えたが、未だに導入や用途について知らない県民も多い。そのため、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行う。

Ⅲ－４ 森林・林業教育促進事業

【森との共生推進室】

1 森林林業教育促進事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

森林・林業教育、自然体験活動に関わる団体が連携し、指導者の養成や派遣、体験プログラムの作成などに取り組み、大分の豊かな森林づくりを担い支える、豊かな感性を持った人材を育成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や課題について指導することができる指導者を養成するため森林・林業教育を行う指導者育成研修を開催する。

また子どもの学びの段階に応じた森林・林業学習を推進するため、拠点となる体験フィールドを選定し、森林・林業副読本と連動する森林・林業体験プログラムを作成し、モデル校やみどりの少年団等で実施。

その他、体験型子ども科学館 0-Labo と連携した森-Labo を実施し、公募による森林・林業体験講座を実施。

③ 実績

○森林・林業教育指導者育成研修会開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場 所	研 修 内 容		参加人数
			テ ー マ	講 師	
1	7月1日（土） 13:00～16:30	大分県森林づくりポラン ティア支援センター外	身近な自然と友達になる方法	樹木医 森林インストラクター 石井 誠治氏	36
2	8月26日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりポラン ティア支援センター	「大分の森林・林業」～豊かな森林資 源を生かした地域振興実現に向けて～	大分県林務管理課 主査 小関 崇氏	32
3	9月2日（土） 13:00～16:00	大分県森林づくりポラン ティア支援センター	木材のすすめ ～環境に優しい木質材料～	大分県林業研究部アドバイザー （農学博士） 城井 秀幸氏	32
4	12月12日（月） 9:15～16:30	① 農林水産研究指導セン ターきのこグループ ② 佐伯広域森林組合	① しいたけ栽培と流通 ② 木材の流通と加工	きのこグループ（甲斐副主幹） 森林組合（各担当）	30
5	1月27日（土） 10:00～12:00	大分県林業会館新館	① 学習指導要領における「森林・ 林業」の位置付けと教育活動 ② 森林教育と教科融合的な取り組み （明治小学校の取り組み事例）	① 京都教育大学 名誉教授 山下 宏文氏 ② 佐伯市立明治小学校 校長 伊東 俊昭氏	35
6	2月17日（土） 10:00～15:00	① 高尾山自然公園 ② 大分県森林づくりポ ランティア支援センター 研修室	自然観察会など森林・林業体験学習活 動の進め方 修了式	森林・林業教育指導者 ① 渡辺 政治氏(全般) ② 瀬口 三樹弘氏(樹木)	20

○体験型森林講座森-Labo の開催実績（6回）

回	開催月日 時間	場 所	研修内容		参加人数
			テーマ	講師	
1	7月29日(土) 13:30-15:30	0-Labo (大分市)	木を科学する ～木のオモシロ実験～	大分県農林水産研究指導センター 林業研究部アドバイザー (農学博士) 城井 秀幸氏	26
2	8月19日(土) 13:00-16:00	0-Labo (大分市)	木のおうちをつくろう	一級建築士 板場 奈美氏 高橋 由美氏 湊 智子氏 安東 歩 氏 小関 公香氏	25
3	9月24日(日) 10:00-12:00	高尾山自然公園 (大分市)	きのこってどんな生き物？ ～君も探してみよう、不思議だらけの森のきのこ～	大分きのこ会 波多野 英治氏 (農学博士) 村上 康明氏	15
4	10月28日(土) 10:00-12:00	高尾山自然公園 (大分市)	この木なんの木？ ～森の木で遊ぼう～	大分県森林・林業教育指導者 伊藤 正行氏 江口 初男氏	15
5	11月25日(土) 10:00-12:00	高尾山自然公園 (大分市)	秋は木のタネがおもしろい！	大分県森林・林業教育指導者 渡辺 政治氏 瀬口 三樹弘氏	9
6	12月2日(土) 13:00-15:00	高尾山自然公園 (大分市) 大分県森林づくりボランティア 支援センター	野生動物のフィールドサインを探そう	大分県環境教育アドバイザー 森田 祐介氏	20
				合 計	110

④ 実施状況写真

- ・ 研修会開催の様子



研修会開催状況



現地実習

- ・ 森-Labo 開催の様子



木のオモシロ実験



きのこってどんな生き物？

(3) 成果

- ・森林・林業の現状や課題についての知識を持った「森林・林業教育指導者」育成研修会修了者39名を育成することができた。
- ・一般公募による森-Labo を開催することで、森林・林業に興味を持つ子ども達を広く募り、学びを深めることができた。

(4) 今後の課題と取組

指導者育成研修に関しては、3年間で99名養成した指導者のスキルアップの支援と、指導者の活躍の場の創出に努める。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、一般公募による森林体験教室を開催するなど、引き続き森林・林業教育の裾野を広げる取組を実施する。

2 森林林業教育支援事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「森づくり人材育成協議会」

(2) 実施事業の概要

① 目的

大分の豊かな森林づくりを担い支え、豊かな感性を持った子ども達を育成するため、学校教育等において森林や林業について専門家から直接学ぶ機会、また森林内や林業現場における体験学習の機会を創出する。

② 事業内容

森林・林業教育の実施に係る各種相談の窓口となり、県や関係機関と連絡調整を行う。また、森林・林業教育の実施に当たって、申請に応じ、講師の選定、派遣及びバス等の助成を行う。

③ 実績

○森林・林業教育支援校（4校）

NO.	学校等名称	事業内容			
		対象学年	活動場所	主なテーマ・趣旨	体験活動内容
1	別府大学 明星小学校	5年	①くじゅう九電の森（由布市） ②椎茸生産現場（別府市）	林業の仕事や大分名産椎茸に興味をもつ	林業講座 枝打ち作業 丸太切り
2	白杵市立 白杵南小学校	5, 6年	九電所有林（由布市）	林業について学ぶ	林業講座 丸太切り
3	国東市立 安岐中央小学校	特別支援 1年～5年	国東市安岐町の椎茸生産現場 （国東市）	地域の産業である椎茸について学ぼう	椎茸生産の流れ 椎茸の駒打ち体験 森林教室
4	佐伯市立 明治小学校	6年	佐伯広域森林組合	佐伯広域森林組合見学 産業としての林業を知る	森林組合製材所見学 森林教室

④ 実施状況写真



枝打ち体験



しいたけのコマ打ち体験

(3) 成果

林業の従事者やしいたけ生産者から直接学ぶ機会を提供し、また森林内や林業現場において実際に子ども達が体験する学習の場を提供することができた。

(4) 今後の課題と取組

学校などからの森林・林業体験に対する要望に柔軟に対応するため、体験学習を受け入れてくれる専門家やフィールドの確保は課題である。

地域の特性に応じた提案ができるよう、情報収集とネットワークの構築に努める。

3 森林林業教材作成事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「株式会社プランニング大分」

(2) 実施事業の概要

① 目的

学校教育を通じ、大分県の森林の現状及び県産材利用の意義等の理解を促進し、体系的、継続的な森林・林業教育を推進するため、学習指導要領に沿った大分県の森林・林業副読本を作成する。

② 事業内容

大分の森林・林業の現状や森林の持つ多面的機能、林業が果たす役割、森林や林業に携わる人々のインタビューなどを掲載したデジタル副読本を作成する。

小学校5年生社会、及び中学校技術家庭科の技術の授業で活用することを想定し、学習指導要領に沿った内容とし、またGIGAスクール構想のもと一人一台タブレットが配備された教育現場に適応した動画等を盛り込んだデジタル副読本とする。

また、指導者用ガイドブックを作成し、学習指導要領との関連性や活用例等を記載する。

③ 実績

作成した副読本は、導入となる使い方ガイドを県内の小学校5年生及び中学校1年生に配布し、県HPにアップしたデジタル副読本にアクセスして活用してもらう環境を整備した。

また、当県における森林・林業教育の事例や事業等を紹介する動画を作成し県ホームページに掲載することで、学校関係者等の取組みを推進ためのツールを整備することができた。



小学校5年生社会科用



中学校技術家庭技術用

(3) 成果

- ・大分の森林や林業について、教科書を補填する教材を作成することができた。
- ・森林や林業に携わる人々の声を動画により触れることができ、子ども達のキャリア教育にも活用できるものとなっている。

(4) 今後の課題と取組

副読本の内容を更新するとともに、副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育委員会と連携して教育現場への働きかけを行う。

4 森の先生派遣事業

(1) 実施主体

大分県 委託先：「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」

(2) 実施事業の概要

① 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

② 事業内容

保育所や幼稚園、小・中学校・放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

児童の安全に関する知識の習得及び指導力の向上を目的とした研修を実施する。

③ 実績

子どもを対象とした森林体験活動の実績

	R 3	R 4	R 5
派遣回数	78回	102回	98回
派遣人数	410人	497人	511人
森林体験者数	2,926人	3,898人	3,574人

森の先生や教育関係者を対象とした研修会開催実績

	R 3	R 4	R 5
研修会回数	2回	2回	2回
参加者数	46人	23人	24人

④ 実施状況写真

- ・森林体験学習の様子



自然観察会

- ・研修会の様子（森の先生ノウハウ共有）



冬の観察会実習



葉っぱになって冬を過ごそう

(3) 成果

- ・保育所や幼稚園、小・中学校・放課後児童クラブ等で開催される行事等に、森の先生を106回派遣し、3,574人が森林体験活動を体験した。

- ・令和5年度は森の先生を対象に研修会を行い、実際に学校現場で働いている方を講師として、現状に即した子どもたちへの接し方を学んだ。また、別の研修会では、森の先生同士でノウハウを共有することで、能力の更なる向上を図った。

(4) 今後の課題と取組

森林・林業教育の一環として活用されるよう、各教育機関にPRを行い、森の先生派遣事業の利用増加を図る。

また、森の先生の能力向上を目的とした研修を継続し、知識を共有する。

5 名樹とのふれあい事業

(1) 実施主体

市町村、大分県

(2) 実施事業の概要

①目的

県指定の特別保護樹木（林）のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

②事業内容

I 樹木医の診断に基づく樹木の治療

- ・不健全な樹木の保全 ……整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防……進入防止柵設置など

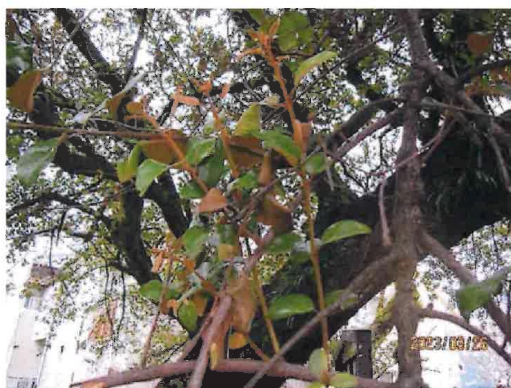
II 特別保護樹木・林の標柱（標識）の設置・立替

③R4実績

- ・治療 2件 津久見市：ウバメガシ
白杵市：ナツメ
- ・標柱・標識の設置 1箇所 中津市：雲八幡神社の森

(3) 活動状況写真

①ウバメガシ（津久見市）の治療



治療前（他植物の浸食）



治療中の様子（剪定）

②雲八幡神社の森（中津市）の標識設置



設置後の標識

（４）今後の課題と取組

特別保護樹木（林）は樹齢が100年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図る。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

【活用例：城原神社の森（竹田市）での「森の先生」派遣による体験学習】



6 次代の森林づくり活動リーダー育成事業

（１）実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

（２）実施事業の概要

①現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

②目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図る。

③事業内容

「地域活動の強化」、「他の少年団との交流」、「リーダー候補生として育成」の3つのステップに沿った支援を実施している。

「地域活動の強化」

- ・少年団の地域活動への支援として、資材や機材の購入経費の補助を実施。



植樹活動



下刈作業

「リーダー候補生として育成（リーダー育成研修の開催）」

- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施。

【参加者】 県下少年団

【行程等】 令和5年7月26日～28日（2泊3日）



屋久島環境文化村センター



ヤクスギランド

「他の少年団との交流」

- ・全少年団を対象とした交流会「つどい」を実施。

【参加者】 県下のみどりの少年団 計77名

【行程等】 令和5年8月3日～4日



活動発表



森林での体験学習



記念撮影

- ・ 県内みどりの少年団活動発表大会を実施。

【参加者】 県下のみどりの少年団 計5団

【行程等】 令和6年2月3日

各少年団団員がスライドを用いて令和5年度活動について報告した。発表後は選考会による審査を行い、最優秀賞に選出された団には表彰状を伝達した。



発表の様子



表彰の様子

(3) 成果

少年団の地域活動への支援を行い、活性化を図った。

(4) 今後の課題と取組

より多くの県下みどりの少年団が充実した活動を実施することができるよう、継続した支援を行うとともに、支援について広く周知を図る。

また、意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、内容をさらに拡充させた研修会や活動を実施する。